動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話 （鉄電） 千葉 2935・2939番
（公） 043（222）7207番
97.8.28 No. 4650

新ガイドラインは、その③ 「戦争マニュアル」だ！

作戦計画「5027」

「100万人殺りく」のシナリオこそ、新ガイドラインのベースだ！

日米防衛協力の指針（ガイドライン）の見直しによって日米帝国主義は、朝鮮半島に対してどのような侵略戦争をしようとしているのだろうか。

北朝鮮侵略のための作戦計画「5027」

朝鮮侵略戦争を具体的に示した作戦として、米軍が九二年に策定した作戦計画「5027」というものがある。この「5027」は、二年毎に改訂し、今も生きている作戦計画だ。内容は、韓国軍とともに北朝鮮を全土を主戦場にして戦闘、上陸作戦を敢行し、平壌（ピョンヤン）を軍事的に占領して北朝鮮政権を転覆する、というものだ。

時期的にも、ソ連スターリン主義が九〇年末に崩壊した後、直ちに北朝鮮スターリン主義を崩壊させるためのシナリオとして作戦計画をたてたものだ。しかも、九一年一月の湾岸戦争直後でもある。そして、九四年春の「核施設問題」での一触即発の危機を経て、今日、朝鮮侵略戦争がまさに切迫している。

新ガイドラインとは、この米韓連合軍の作戦計画「5027」をベースにして改訂されようとしているのだ。そして、日本も参戦しようというという、まさに戦争マニュアルだ。

五〇万の米軍部隊が日本全土から出撃

「5027」は、次の第一段階から第五段階で構成され（表を参照）、兵力五〇万、航空機一六〇〇機、空母五隻を含む艦艇二〇〇隻を動員し、「核を使わない通常戦でも一〇〇万人以上の死者が出る」とシュミレーションしている。まさに大量殺戮の侵略戦争だ。

まず、**【前段階】**で大きな問題になるのが中間報告にある「経済制裁の実行性を確保する活動」としての**「海上阻止・臨検」**だ。この海上阻止・臨検は、北朝鮮への物資の補給を断つために軍隊が強制的に乗り込み、実際には戦闘に発展する行動だ。また、**「日本人の救出」**という侵略戦争の常套手段を使って朝鮮への自衛隊機・艦船が派遣される。日本国内では、自衛隊法の改悪をはじめとした治安立法が強行される。

【第一段階】になると五〇万の軍隊を受け入れるために民間空港や港湾が全面的に提供される。同時に武器弾薬、食料、燃料などの**「平站支援」**が始まる。「平站支援」とは、人間の体でいえば動脈を通う血液と同じだ。戦争を継続させるための最重要活動として各段階で休む間もなく大規模に行なわれる。そして、荷役や運送、施設の確保などに運輸や自治体労働者を先頭に労働者が総動員される。しかも、この役務を拒否すると**「罰則」**＝逮捕・投獄が行なわれることになる。

【第二段階】ここでは米軍艦船・艦載機、兵員や物資の輸送に自衛隊が**「護衛」**に就く。米空母を海上自衛隊のイージス艦が守るのだ。まさに護衛という名の共同出兵だ。

対潜哨戒機・早期警戒機による**「情報収集」**により、リアルタイムで攻撃目標を決めることになる。

「捜索・救難」とは、まさに戦闘区域に入って捜索するということであり、軍事行動そのものなのだ。**「医療活動」**も同様だ。

「機雷掃海」は朝鮮侵略の先兵

【第三段階】平壌に向け沖縄海兵隊を中心ににして強襲上陸が行なわれ、そこで自衛隊による**「機雷掃海」**が行なわれる。上陸経路にある機雷を爆破するために、米軍より先んじて作戦地域に入るのだ。自衛隊は三三隻の掃海艇を持っており（米軍は佐世保に二隻）、米軍も自衛隊に依存せざるをえないのだ。まさに朝鮮侵略の先兵となるということだ。

【第四・五段階】「被災地支援」と**「PKO」**を口実とした自衛隊の本格的な送り込みが行なわれる。ここでいう「被災地」とは、爆撃で破壊された戦場であり、朝鮮人民一〇〇万人が虐殺されたところだ。自らが虐殺した地域に「被災地支援」や「PKO」活動と称して自衛隊を送り込み、北朝鮮侵略を果たそうとしているのだ。

侵略戦争と暗黒の時代を吹き飛ばそう

以上、北朝鮮侵略を目的とした作戦計画「5027」を見てきたが、ここに挙げた問題はほんの一例である。この他にも、自衛隊法を改悪して米軍施設や原発、主要官庁、物資輸送経路の警備などへの「警備出動」、労働者の役務拒否に対する罰則や「平站支援」の裏付け、反戦闘争や労働組合活動への弾圧などを行い、有事体制を作り上げるための有事立法制定が策動されるのだ。

こうした朝鮮侵略戦争と暗黒の時代に向けて日米双方が合意しようとしているのが新ガイドライン＝戦争マニュアルだ。

今こそ新ガイドライン＝戦争マニュアル阻止へ決起しよう！

九・二三新ガイドライン反対総決起集会に全力で集まろう！

◆作戦計画「5027」での米軍と自衛隊の動き◆

段階	米軍の行動	自衛隊の行動	国内の状況等
前段階	・あらゆる口実で北朝鮮に「経済封鎖」を実施。事実上の「宣戦布告」 ・経済制裁の実行性をを上げるための海上阻止行動・臨検	・「日本人の救出」を口実に自衛隊航空機、艦船を朝鮮半島に派遣 ・情報収集活動の展開 ・米軍と共に阻止行動・臨検に参加	・自衛隊法改悪をはじめとした有事立法 ・米軍施設や原発、主要官庁、物資輸送経路等の警備
第1段階	・「前方迅速展開作戦」として沖縄や日本本土の基地から戦闘機が発進ー朝鮮半島の制空権確保 ・「迅速展開抑止能力」として50万の軍隊が出動体制	・福岡・築城基地、石川・小松基地から自衛隊機が発進ー米軍とともに展開 ・武器弾薬、燃料、食料などを補給・輸送する「平站支援」を始める	・40万を受け入れるため全国の空港・港湾施設を提供 ・「平站支援」のために運輸、自治体などの労働者が動員される。 具体的には、施設や土地の接収、公務員、鉄道・道路・航空・海上の輸送、通信、空港、港湾での荷役、基地内での整備、軍需品の生産、道路・陣地・施設の建設、通信など様々な役務に労働者が強制的に大量動員される
第2段階	・北朝鮮の奇襲をソウル北方で阻止 ・空軍と巡行ミサイルで北朝鮮全土をじゅうたん爆撃 ・横須賀のインディペンデンス空母機動部隊が出動。艦載機や巡行ミサイルによる陸上攻撃により沿岸海域を制圧	・空母機動部隊の艦船、艦載機の護衛、給油、艦載機の整備、弾薬やミサイルの補給や保管 ・作戦行動海域での機雷掃海、対潜水艦戦の実施 ・哨戒機・偵察機による情報収集・情報の共有	
	・米本土から重爆撃機、空挺師団・歩兵師団を急派、機械化師団派遣・空母機動部隊の増援と海兵遠征軍の派遣	・韓国への輸送船団の護衛及び対潜水艦戦 ・水、食料、燃料、被服、武器弾薬の補給や輸送、戦闘機や輸送機、艦船の修理や整備 ・戦闘で墜落した米軍の捜索・救難	
第3段階	・沖縄海兵隊を先頭に米韓連合軍が38度線を突破。北朝鮮の首都・平壌に進撃 ・北朝鮮の沿岸に強襲上陸作戦	・地上戦闘での医療活動、戦死者、負傷への回収と日本への移送 ・強襲上陸に伴う機雷掃海	・負傷兵の治療などに医療施設や労働者・看護婦が動員される ※労働者の役務拒否には罰則反戦闘争、ストは禁止
第4段階	・平壌以北まで占領し、軍事統治を始める	・PKOを口実に軍事統治の一角を占めようと狙う	
第5段階	・北朝鮮政府を転覆、韓国主導で南北統一を実現	・「被災地への支援」活動	